

阿智村 山づくりの会 薪の駅 事業概要(イメージ)

薪の駅に間伐材を集めて薪をつくり、地域の旅館や個人・団体に販売をする



薪の駅事業計画

間伐材・C材(質の悪い材)を村内の方々から購入し、薪ボイラーや薪ストーブ用の燃料として販売・供給する事業を始める。

収集目標	年間1000トン(原木)
間伐材・C材 仕入価格	単価6千円/トン(補助+材価) ・ 年間600万円
薪(ボイラー用) 売上高	単価1.2万円/トン(薪ボイラー用1m長) ・ 年間720万円 ※乾燥・加工するため歩留まり6割を想定
経費	人件費280万円・機械使用料50万円・光熱費等80万円 計410万円
森林補助	初期 300万円/年(3千円/トン) →ふくまるくん商品券として地域へ還元 ※作業性の向上により順次減額
収支	+10万円(年間)

- ・公的な森林整備補助金を投入しながら、収支がマイナスにならないよう事業運営を行う。
- ・将来的(おおよそ5年後を想定)には、作業性の向上・効率的な機械の導入等により、補助金がゼロでも黒字になるように経営努力を行う。
- ・事業体としては利益が残る事業ではないので、NPO(任意団体も可)の形体となる。

経済効果

当初目標として、年間1000トンの原木を収集することにより、村内に多様な経済効果を生み出すことを想定している。

山仕事をする方々への 経済効果

収集目標	年間1,000トン(原木)
参加人数 (想定)	約40人 (一人当たり7万円強のふくまる君)
地域内 経済効果	300万円相当のふくまる君 × 数回転の経済循環
日本円で の 経済効果	300万円
合計の 経済効果	1,000万円以上? (ふくまる君で村内に2回転以上の 経済循環を生み出すことを想定)

観光業(旅館業)をする方々への 経済効果

木質燃料 利用目標	年間600トン(薪)
削減灯油 量	年間21万リッター
灯油代 削減額	年間2,100万円
燃料代 削減額	年間1,390万円(灯油代-薪代)



山仕事をする人、旅館業をする人への経済効果は、あわせて2,000万円以上と想定され、将来的な山林資源の資産価値向上や災害対策としても大きな効果があると考えられる。

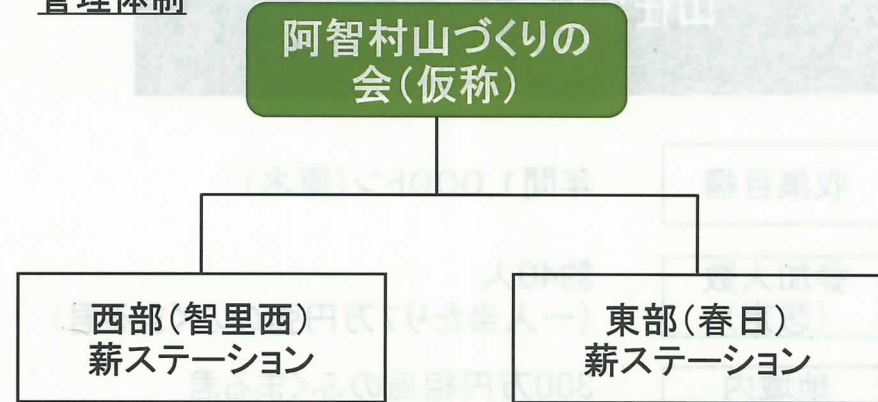
導入機械と管理

阿智村山づくりの会(仮称)が機械の管理や整備を行いながら、薪づくり、薪販売を行う。



- 管理機材(予定)
- グラップル
 - 薪割り機
 - 林内作業車
 - 可搬式トラックスケール
 - 2tユニック(中古)

管理体制



管理責任者:
製材クラブ(大藪)

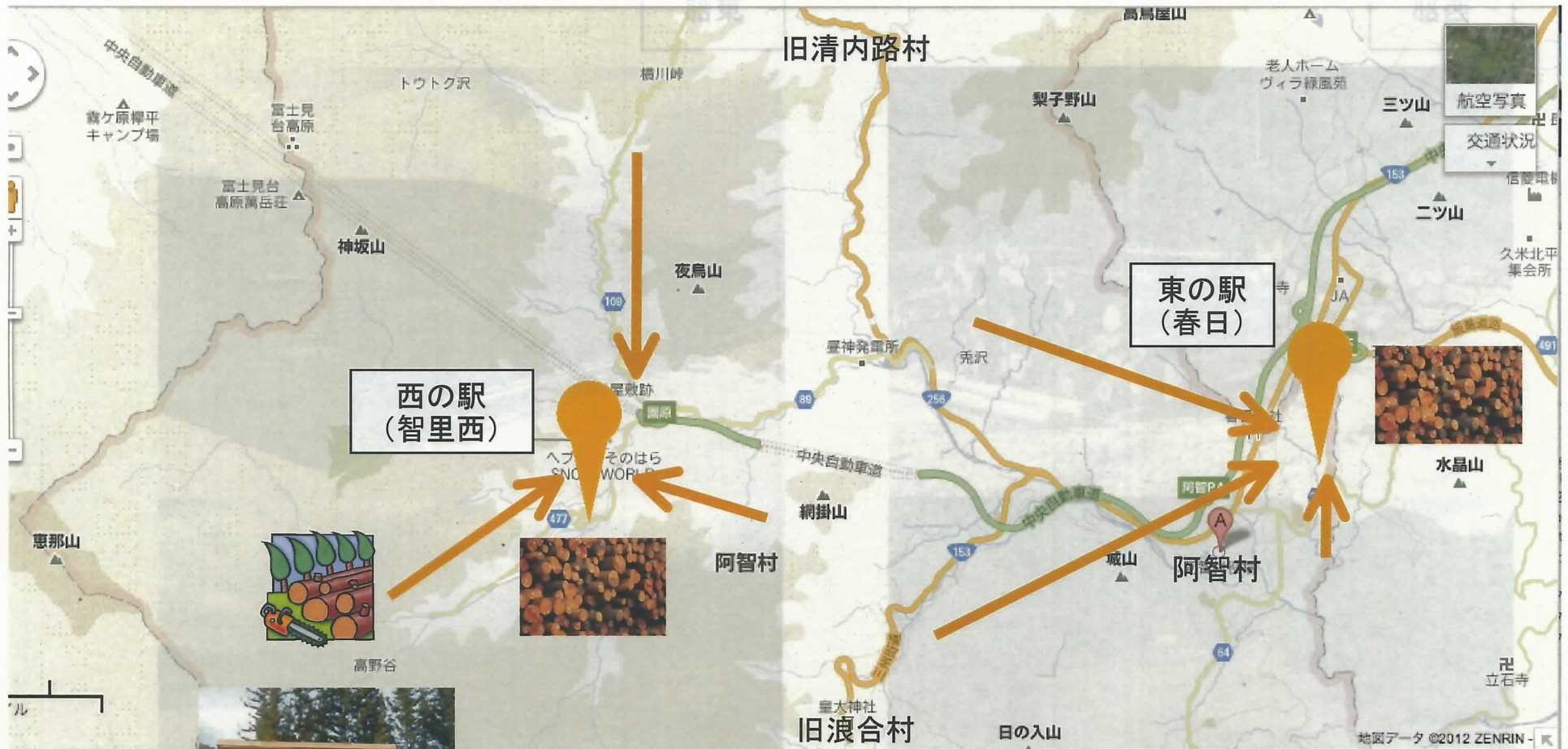
- グラップル
- 林内作業車
- 可搬式
トラックスケール
- 2tユニック

管理責任者:
夢のつばさ(渋谷(智))

- 薪割り機
- (グラップルやトラックスケールは必要時に搬入)

阿智村 薪の駅 (集材土場) マップ

東西の薪の駅



薪スタンドも
昨年より実験開始

薪の駅 (集材土場) の写真

西部

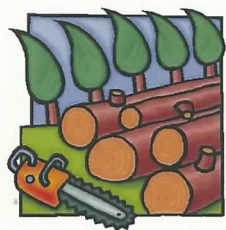


東部



参考)山の整備 ～智里西製材クラブの例～

伐倒・玉切り・枝払い



架線集材・木寄せ



運搬

